令和７年度おかやま協働のまちづくり賞応募用紙

令和 7年　8月　28日

岡山市長　様

応募者代表　団体名　Le Lien(ルリアン)
～難病児・障害児・医療的ケア児家族と絆を紡ぐ居場所～

氏　名　井上　みやび

令和７年度「おかやま協働のまちづくり賞」に応募します。
募集テーマ：「子どもと一緒に未来を描けるまちづくり」

取組の名称	おむすびカフェ
取組の概要 インターネット投票を行うサイトにそのまま掲載します。今年のテーマとの関連がわかるよう、目的及び取組概要、アピールポイントを300字（句読点含む）以内で記載してください。	○テーマ「これまで支援が届きにくかった親や子どもへのアプローチ」 Le Lien(ルリアン)～難病児・障害児・医療的ケア児家族と絆を紡ぐ居場所～では、難病や障害を抱え、医療的ケアを受けながら今を生きている子どもとその家族、また、これまで頑張ってきてお空に還っていった子どもたちやその家族の道しるべや架け橋になれるように、主に、知ってもらう活動、知る活動、繋がる活動として以下の多様な取り組みをしています。 ・「お話会」として、毎月第3金曜日10:30～12:00に株式会社エール内のフリースペースにて当事者や支援者を対象に開催 ・「出張お話会」として、不定期にカフェ・公民館・ハナレ(メンバーの自宅)など場所を変えてのお話会を開催 ・「虹の架け橋」として、子どもが旅立った家族のお話会をメンバーの自宅にて開催 ・「訪問心療」として、お話会に参加しづらい家庭に個別に個人宅に伺いハンドセラピーを施しながらの個別相談 ・オープンチャット、公式アカウントでも情報交換・個別相談などの実施 ・イベントは年に1度「おむすびカフェ」を、こども訪問看護ステーションゆいさんと共催し、さまざまな団体の協力を得ながら、当事者家族や支援者・希望者の交流会を開催 ・HOME18岡山さんが主催する「全国巡回18トリソミーのこどもたち写真展「岡山展」岡山スペシャルニーズVer.」に協力というかたちで全国から集まった18トリソミーの子どもたちの写真パネルと一緒に病気の種類の隔たりを超えて「岡山スペシャルニーズVer.」として、岡山で暮らすさまざまなスペシャルニーズの子どもたちの写真パネルも展示しての啓発活動 ・医療的ケア児や難病児の生活、家族の気持ちなどを伝える講演会を実施
成果・効果 取組を通じて得られた成果や、解決した社会課題の状況、また関連した地域への効果や変化などを書いてください。	わたしたちが団体を立ち上げたのは2022年の12月、この頃「医療的ケア児」を対象とした団体などが確立していませんでした。情報の散漫さや、病院内、施設内、自宅などでの閉鎖された空間での育児、孤独感を緩和するためにも必要性を感じ、当事者である母親がふたりで団体を立ち上げることを決意しました。 医療的ケア児のみを対象にせず「難病児・障害児・医療的ケア児」を対象にしたのは、特殊な病気のお子さんの家族が「自分たちは違う」と感じて孤立した環境になってしまうことがないように、病気種類による隔たりを無くしたかったからです。 2025年で活動を続けて3年目になり、お話会だけでも合計28回開催、延べ258名の方に参加いただいています。実際に「病気の種類の隔たり」がないことで出会えたご縁がたくさんありました。病気は違えど同じように生きづらさを抱えながら子育てに奮闘し、生活している家族に実際に出会い、話せることは共感と勇気と希望に繋がっていくことを、参加者の様子から実感しました。さらに、当事者のみではなく、支援者や希望者も対象としていることで、当事者同士では解決できない問題も支援者を交えながら話すことで解決の糸口を探求する時間になったり、支援する立場からも課題として捉え、問題解決に向けて考慮するキッカケになったり、垣根を超えて本音で話し会うことで、お互いに歩み寄れるいい機会になっていると感じています。 また、イベントを開催することにより、より多くの方が結びつくキッカケになり、スペシャルニーズの子どもたちの家族や支援者の交流の場を広げる役割を果たせていると感じています。協力者を増やすことで、互いに知らなかったことを知るキッカケにもなっており、こうしたご縁を紡いでいくことで地域、社会との繋がりも広く深くなっていき、当事者が感じている「生きづらさ」の緩和に繋がっていくのではないかと感じています。

●次の書類等を添付してください。

①〔様式１〕協働による社会課題解決の取組の内容

②〔様式２〕取組実施団体概要書

③写真等取組イメージ画像の電子データ（１枚）

インターネット投票を行う際のエントリー一覧に使用します。エントリー一覧は、応募順（事務局受付順）に掲載します。

④取組内容や成果、協働の役割などをわかりやすくまとめたシート（デジタルデータ）１枚

シートをもとに、事務局でポスターを作成し、展示等を行います（シートの作成が技術的に困難な場合は早めにご相談ください。シートづくりをお手伝いします。）

⑤その他取組の説明資料：Ａ４で２ページ以内の資料を添付できます。

※提出していただいた書類等はすべて審査の対象となり、〔様式２〕以外は原則、ホームページ等で公開します。

〔様式１〕　協働による社会課題解決の取組の内容

取組の名称	おむすびカフェ
テーマとの関連	◎取組とテーマが合致している点を書いてください。 2025年現在、岡山県内の医療機関を受診している医療的ケア児は、岡山県内に居住する318人(岡山県子ども・福祉部障害福祉課 保健医療部医療推進課 岡山県医療的ケア児支援センターによる調査結果より)とされていますが、医療的ケア児、難病児、障害児やその家族は感染症の予防、移動の困難さ、環境の不一致など様々な課題が要因となり、一般的な子育てに比べると交流の場が少なく、機会があっても体調や気分が優れず参加が難しいことも多いため、他者との関りを持てず閉鎖的な日々を送り生きづらさを感じている家族も多くあります。 そこで、同じような悩みを抱えてきた当事者であるわたしたちが当事者家族・支援者・希望者の交流を目的としたイベントを企画し、理解者の協力を得ながら保護者への癒し、子ども(当事者・きょうだい)への楽しみを提供できる場として「おむすびカフェ」を開催しています。
取組の目的・目標	◎取組の目的・目標を社会課題の具体的な状況をふまえて書いてください。 「ご縁を結ぶおむすびカフェ」とうたい、ご縁を「結ぶ」と、おむすびを「むすぶ」をかけています。おむすびを提供するねらいは、2点あり、1つ目は毎日頑張っている親御さんの休息に繋げるためお昼ご飯を提供することで1食分の家事の負担を和らげるため、2つ目は生活を共にしたり、苦楽を分かち合う親しい仲間の例えを表す「同じ釜の飯をくう」という言葉を用いて絆を深めるためです。 また、さまざまな団体や企業と繋がり協力を得ることで、互いの理解を深めたり、隠れていた実態を視える化し、身近に感じてもらう狙いや啓発活動、ご縁を繋げる目的もあります。
取組の内容	◎取組の内容について具体的に書いてください。 **１　取組の対象：対象地域、対象者、対象人数など** 対象地域：岡山県内 対象者：難病・障害・医療的ケアを要する子どもとその家族、支援者、希望者(知りたい、理解したい、協力したい気持ちのある方) 対象人数：おむすびの提供は20食限定としているが、会場の規模では50名程度 **２　活動内容、実施方法など** 実施日：2025年5月26日㈰11:00-14:00 会場：吉備公民館　2F第1.2.3講座室 会場入場費：無料 おむすび提供：おむすび3つとお味噌汁1杯のセットで￥300（LeLien） 珈琲提供：珈琲1杯￥300（足りない勉強家） パネル展：岡山県内在住のスペシャルニーズな子どもたちの写真パネル展示（HOME18岡山） 遊び場、子ども見守り、ワークショップ提供：プレイルーム、ワークショップ（うちわ作り、フォトフレーム）、子ども見守り保育　すべて無料（こども訪問ステーションゆい） 福祉ネイル提供：ポリッシュ・水性ネイルこども￥500 おとな￥800、ハンドトリートメント、爪磨き各￥500（Candy Slow、Nanala） **３　工夫した点や取組の特徴** ・目的を持って会場に足を向けやすくなるコンテンツを用意。（おむすび、珈琲、遊び場、ワークショップ、福祉ネイル、パネル展など） ・多様な団体や個人が組み合わさることで、閉鎖感をなくし、支援経験者を集めることで不安感を解消でき、どんな方も来やすい環境作り。 米不足の昨今、家計の負担を減らしお得感を感じてもらえるように、おむすびをなるべく安く提供できるよう知人からお米を購入させていただき、スタッフの好意のもと迅速に提供することを心がけています。今年で3年目になるこの取り組みでは、今までで一番多くのスタッフに参加してもらえ、迅速な対応が可能になりました。 ◎取組をＷＥＢ等で告知している場合はそのＵＲＬを書いてください。 活動内容はインスタグラムにて公開中です。 Instagram：https://www.instagram.com/lelien_kizuna/

取組の実施期間 今後の活動展開など	始期：　2022年12月～	☑ 継続予定 □ 令和　　年　　月終了 □ 令和　　年　　月頃終了予定 該当するものに☑し必要事項を記入してください。
	◎今後の成果の普及や活動展開などについて書いてください。 現在行っている活動は継続しつつ、さらに横の広がりを作り、親睦や理解を深めていきたいと考えています。少数派であるからこそ、理解されづらく、疎外感を感じながら生活をしている家族が少しでも減るように、知ってもらう活動、知る活動、繋がる活動を積極的に行って、当事者家族の実際の生活や想いを知ってもらい、輪を広げていくことで、当事者も地域の人も難病や障害や医療的ケアのこどもが「居て当たり前」と感じられるような環境を目指しています。 「いつだれがどのようになっても」安心して過ごせる社会づくりを目標に。隔たりのない認識と心のバリアフリーを大切に、切れ目のない支援を目指して「関係のない人なんていない」と、誰しもが自分事のようにいろんなことを捉えて過ごしやすくなるように、いろんな方面から連携の取れる社会に繋げていける活動をしていきたいと思っています。	

協働による 効　果	◎協働したことにより達成できたことや得られた効果を書いてください。 協力者を募ったことで、珈琲や福祉ネイルの癒し効果、こども見守り隊の配置により親子共々、安心感、満足感を感じてもらえました。 普段は交わることのない取り組みが同じ目的を持って集まることで、できることの幅が増え、互いに認め合ったり、想いを共有する場となり、優しい空間を生み出すことができました。	
協働団体と その役割 ※協働団体が他分野にわたっていることや、各団体の関わりの深さも評価の対象となります。 ※足りない場合は欄を追加してください。	団体名	こども訪問看護ステーションゆい
	団体種別	□住民自治組織　□市民活動団体　☑企業　□教育機関　□行政　□その他（　　）
	役割	こども見守り、プレイルーム設置、ワークショップ
	団体名	合同会社OEN　Candy Slow.carespace
	団体種別	□住民自治組織　☑市民活動団体　□企業　□教育機関　□行政　□その他（　　）
	役割	福祉ネイル
	団体名	HOME18岡山
	団体種別	□住民自治組織　☑市民活動団体　□企業　□教育機関　□行政　□その他（　　）
	役割	パネル展示